

富士特殊紙業が共同開発を開始

環境配慮型紙ボトル「ēfbottle (エフボトル)」※は
高い意匠性と全面印刷で高級感を演出
紙とプラスチックの良さを合わせ持ち使用後は分離し分別廃棄

※ ēfbottle は現在商標出願中です

「紙容器でボトルができないか」…プロジェクトは、パッケージアドバイザー見鏡氏から富士特殊紙業・杉山真一郎社長が受けた相談から始まった。同社は現在、プラスチックフィルムを加工し食品パッケージを作っているが、70 数年前の創業時は紙を加工していた。杉山社長はこの相談をきっかけに紙ボトルの存在を知り、昨今の消費者の環境意識の高まりとともに、新しいパッケージに挑戦してきた同社の原点に戻って新開発プロジェクトを決断した。



杉山真一郎社長

プロジェクトの理念は「持続可能な新時代 (epoch) に向けて、各ステークホルダーが融合 (fusion) することで社会問題を解決」

本プロジェクトの理念には多彩な企業が賛同し、現在、4社（大日本印刷・富士特殊紙業・クレエほか）が紙ボトルの開発に携わっている。PETボトルや紙パックには無い意匠性と重い・割れやすい・全面印刷できないというガラス瓶の課題を解決し新しい環境配慮型のボトルの実現を目指している。

環境配慮型のパッケージで若者をターゲットに

新開発中のボトルの外側は厚紙、液体が入った内包はフィルムパウチ。ワイン、日本酒、各種飲料、オリーブオイルなどの内包を可能にした。使用後は紙とプラスチックに分離し分別廃棄。資源循環に貢献できる。ガラス瓶と比較して容器製造時エネルギー消費量を大幅に削減、運搬時の環境負荷の軽減も可能になった。ēfbottle の ēf とは開発のキーワード「地球にやさしい (earth-friendly)・環境にやさしい (eco-friendly)・排出ゼロ (emission-free)」の頭文字である。当初製造単価は割高にはなるが、環境意識が高く社会貢献を考える若者をターゲットとし女性や高齢者など、みんなにやさしい (everyone-friendly) ボトルになることが期待されている。



ēfbottle が広げる可能性

新開発中のボトルは可能性を大きく広げた。①全面に印刷できる＝高い意匠性、デザイン性の高いボトルで高級感を演出。オリジナルなデザインを施すなど新しいマーケットの創造。②軽く割れにくい＝運搬時の環境負荷軽減、観光地でのお土産や通販の持ち運びにも高い利便性を発揮。既に日本酒メーカーからの問い合わせもあり、飲料に限らず様々な液体に活用できるため、多方面から注目されている。

今後の展開

- 2023年春頃に日本酒や洋酒などの業界に向けた実証実験を行う予定。
- 今後より環境に優しい紙の使用やフィルムパウチのモノマテリアル化なども視野に入れ、プロジェクトチームは研究開発に取り組んでいく。